

表 3つの次元とその基礎となる資質・能力系統表（案）

1 研究開発課題

高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3つの次元（躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識）の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発

2 めざす子ども像について（中学校卒業時）

互いに高め合う環境の中で共創の喜びを感じながら、広い視野から知性を磨き、挑戦する気概をもち続けて、社会の発展に貢献する高い志をもつ子ども

3 3つの次元について

次元	躍動する感性	レジリエンス	横断的な知識
とらえ	<人間味溢れる豊かな感覚を高め、前向きな価値観に基づき行動しようとする事>	<逆境にさらされても適応し、目標を達成するために再起すること>	<習得した知識を実生活等において活用すること>

4 3つの次元の基礎となる資質・能力にかかわる目標

【躍動する感性について】	幼小接続期				転換期		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	ステップ6	ステップ7
人間味溢れる豊かな感覚 未知なるものや自分とは異なる考え方に興味・関心をもつことができる。	身近なものや人とかかわる中で、おもしろさや不思議さなどを感じ取るとともに、自分とは異なる感じ方があることに気付く。			身近なものや人とかかわる中で、おもしろさや不思議さなどを豊かに感じ取るとともに、自分とは異なる感じ方があることに気付く、興味をもつことができる。	身近なものや人とかかわる中で、おもしろさや不思議さなどを豊かに感じ取るとともに、自分とは異なる感じ方があることに気付く、その感じ方に興味をもったり、受け入れたりすることができる。	様々な事象とかわることを通して、おもしろさや不思議さなど豊かに感じ取るとともに、自分とは異なる感じ方があることに気付く、その感じ方に興味をもったり受け入れたりすることができる。	様々な事象とかわることを通して、新たなことを見付けたり、自分とは異なる感じ方があることに気付いたりして、その感じ方に興味をもったり、受け入れたりすることができる。
自ら学ぼうとする姿勢 学ぶことに対し、自分で価値を見だし、意欲的に打ち込むことができる。	遊びや生活の中で、自分のしたいことを見付けて、やってみようとする。	遊びや生活の中で、自分のしたいことやできることを見付けて、取り組もうとする。	遊びや生活の中で、自分や自分たちのしたいことやできることを見付けて、自分から取り組もうとする。	学校生活や授業の中から自己を見つめ直し、前向きに取り組むことができる。		学校生活や授業の中から自己を見つめ直し、自己を高めるような目標を設定し、前向きに取り組むことができる。	

【レジリエンスについて】	幼小接続期				転換期		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	ステップ6	ステップ7
粘り強く取り組む力 困難な状況においても挑戦し続けることができる。	自分のしたいことを自分でやってみる。	自分なりの目的に向かって、じつくりとやってみる。	自分（たち）の目的に向かって、諦めずにやってみる。	自分（たち）が決めた目標に対して、諦めずに取り組むことができる。	自分（たち）が決めた目標に対して、継続して取り組むことができる。	困ったときに、改善に向けた方法を考え、それを伝えることができる。	困ったときに、すぐに助けを求めず、自分なりに試行錯誤しながら取り組み続けることができる。
コラボレーションする力 公正な態度をもって、価値観の異なる他者と協働することができる。	自分の思いを身近な人に伝えながら、一緒に遊ぶようになる。	友達と思いを出し合いながら、力を合わせて遊びを進めるようになる。	友達の思いに耳を傾け、協力して遊びや生活を進めるようになる。	友達と交流することで、考えの違いを認め、意見を取り入れながら協力して取り組もうとすることができる。	友達と交流することで、考えの違いを認め、協力してさらによりよい考えにしていくことができる。	友達と話し合い、友達と自分の考えを比べながら、よりよい考えを導くことができる。	友達と話し合い、自分と友達の考えを比べたり、関係付けたりしながら、よりよい考えを導くことができる。
複眼的に思考する力 1つの出来事や事実を多くの異なる視点から違う見方をすることができる。		自分とは異なる考え方にふれる。		身近な人や友達の様々な方法や考え方にふれ、複数の考えをもつことができる。	身近な人や友達の様々な方法や考え方にふれ、より良い考えをもつことができる。	2つ以上の事実を比べてみることで、新たな気付きをもち、見方を広げることができる。	2つ以上の事実を関係付けながらとらえることで、新たな複数の気付きをもち、考え方を深めることができる。

【横断的な知識について】	幼小接続期				転換期		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	ステップ6	ステップ7
知識と知識を関連付けながら追究する力 学習したことと学習していることを関連させて考え方を広げ、どこまでも深く調べて明らかにしようすることができる。	今まで経験したことを生かして、遊びや生活に取り入れてやってみようとする。			今まで経験したことや学んだことを生かして、新たな気付きを見いだし、よりよいと思う方法を試すことができる。	今まで経験したことや学んだことを生かして、新たな気付きを見いだしたり、解決へ向けて試したりすることができる。	学んだことや学んでいることを関連させて考えることで、これまでの知識に新たな視点を加えてものごとを見ようとする。	学んだことや学んでいることを関連させて、自分の考え方を広げたり、批判的に思考したりすることで、これまでの知識を新たな視点で見直そうとする。
論理的に問題を解決する力 根拠に基づき、筋道を立てて考え、問題を解決することができる。				身近な人や友達の様々な方法や考え方にふれ、複数の考えをもつことができる。	身近な人や友達の様々な方法や考え方にふれ、より良い考えをもつことができる。	学校生活や授業の中から問題を見付け、順序を意識して、解決への方法を考えることができる。	学校生活や授業の中から問題を見付け、順序立てて解決することができる。

表 3つの次元とその基礎となる資質・能力系統表（案）

1 研究開発課題

高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる、3つの次元（躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識）の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一貫教育カリキュラムの研究開発

2 めざす子ども像について（中学校卒業時）

互いに高め合う環境の中で共創の喜びを感じながら、広い視野から知性を磨き、挑戦する気概をもち続けて、社会の発展に貢献する高い志をもつ子ども

3 3つの次元について

次元	躍動する感性	レジリエンス	横断的な知識
とらえ	<人間味溢れる豊かな感覚を高め、前向きな価値観に基づき行動しようとする事>	<逆境にさらされても適応し、目標を達成するために再起すること>	<習得した知識を実生活等において活用すること>

4 3つの次元の基礎となる資質・能力にかかわる目標

	【躍動する感性について】	小中接続期			義務教育完成期	
		ステップ8	ステップ9	ステップ10	ステップ11	ステップ12
資質・能力	人間味溢れる豊かな感覚 未知なものや自分とは異なる考え方に興味・関心をもつことができる。	自分とは異なる考えや価値観に気付き、興味をもつてかかわることができる。	自分とは異なる考えや価値観を認め、他者の考えのよさを受け入れることができる。	自分とは異なる考えや価値観を認め、相手の考え方や価値観を受け入れることができる。	自分とは違う考え方をもちた他者の存在を認めながら、自分の価値を追求することができる。	
	自ら学ぼうとする姿勢 学ぶことに對し、自分で価値を見だし、意欲的に打ち込むことができる。	何のために学ぶのかを考え、学習に意欲的に取り組むことができる。	学ぶことの価値を自覚しながら、様々な問題に対して意欲的に取り組むことができる。	学ぶことに對して自ら価値を見だし、様々な問題に意欲的に打ち込むことができる。	社会・集団・個人のあるべき姿を想像し、その実現に向けて、自発的、能動的に探求的学習や課外活動に取り組むことができる。	

	【レジリエンスについて】	小中接続期			義務教育完成期	
		ステップ8	ステップ9	ステップ10	ステップ11	ステップ12
資質・能力	粘り強く取り組む力 困難な状況においても挑戦し続けることができる。	うまくいかないことに遭遇しても、何度も試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	うまくいかないことに遭遇しても、見通しをもって試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。	うまくいかないことに遭遇しても、試行錯誤することで問題の改善を図りながら、解決への足掛かりを築くことができる。	解決が困難な場合でも、解決への見通しをもち、改善を図りながら問題の解決に向けて取り組むことができる。	解決が困難な場合でも、問題に対して積極的にかわり、解決への見通しをもってものごとに対して工夫、改善を図りながら、解決に向けて取り組むことができる。
	コラボレーションする力 公正な態度をもって、価値観の異なる他者と協働することができる。	他者との対話を通し、相手の気持ちを考えながら意見を聞き、相手を尊重しながら、状況の改善につながる意見を述べるすることができる。	他者との対話を通し、互いの価値観を認め合いながら、目標に向かって協力して取り組み、合意形成を図ることができる。	他者との対話を通し、互いの価値観を認め合いながら、目標に向かって協力して取り組み、合意形成を図ることができる。	目標に向かって共同で取り組む際に、責任感をもって自分の役割を果たすことで、集団の課題を解決することができる。	互いの意見や発想の違いを認め合い、それぞれの長所を生かし、互いの短所を補い合いながら、課題を解決することができる。
	複眼的に思考する力 1つの出来事や事実を多くの異なる視点から違う見方をすることができる。	事実や出来事に対して複数の思いや願いをもってとらえ、新たな見方や考え方を見出すことができる。	事実や出来事に対して複数の思いや願いをもってとらえ、新たな見方や考え方を見だし、考えを深めることができる。	事実や出来事を別の情報を取り入れながら見ること、新たな見方や考え方を見だし、考えを深めることができる。	立場や年代などの違いを踏まえて事実や出来事をとらえ、実践していくことで、自らの行動を振り返り、これからの自身のあり方に目を向けることができる。	時間的・空間的・立場的・状況的な見方で、事実や出来事を柔軟にとらえ、自分なりに評価して、行動に生かすことができる。

	【横断的な知識について】	小中接続期			義務教育完成期	
		ステップ8	ステップ9	ステップ10	ステップ11	ステップ12
資質・能力	知識と知識を関連付けながら追究する力 学習したことと学習していることを関連させて考え方を広げ、どこまでも深く調べて明らかにしようすることができる。	教科で学習した知識や技能を広く活用し、これまで学んだ見方や考え方を深めたり、新たな考えを導き出したりすることができる。	教科で学習した知識や技能を広く活用し、これまで学んだ見方や考え方を深めたり、新たな考えを導き出したりすることができる。	教科で学習した見方や考え方を汎用的に活用し、これまで学んだ見方や考え方を深めたり、新たな考えを導き出したりすることができる。	原理・法則や過去の成功例を別の事象にも応用したり、収集した情報から共通項を探ったりすることで、一定の結論を導くことができる。	原理・法則や過去の成功例を別の事象にも応用したり、収集した情報から共通項を探ったりすることで、一定の結論を導くことができる。
	論理的に問題を解決する力 根拠に基づき、筋道を立てて考え、問題を解決することができる。	学校生活や授業から解決すべき問題を見つけ、客観的な視点でものごとをとらえることで解決への道筋を明らかにし、問題解決に取り組むことができる。	直面した問題について客観的な視点でとらえ、他者の助言を生かしながら課題設定し、解決策を実行することができる。	直面した問題について現状の把握と課題の設定を行うとともに、課題解決策の立案と実行し、解決策を客観的に評価することができる。	直面した問題について現状の把握と課題の設定を行うとともに、課題解決策の立案と実行、結果の評価と取組の修正をすることができる。	直面した問題について現状の把握と課題の設定を行うとともに、課題解決策の立案と実行、結果の評価と取組の修正をすることができる。